

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	004	事業名	職員福利厚生事業		担当部課	市長公室人事課		
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち			会計区分	一般会計		
	まちづくり行程表・フラッグ	—			予算区分(款—項—目)			
	第6次総合計画・基本目標	✓ 市民から信頼される市政の運営			2-1-4 人事秘書管理費			
	法定受託事務の有無	—						
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 長久手市職員互助会規約						
事業開始の背景、経緯等		職員の福利厚生に資するため。						
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・産業医、顧問精神科医による健康相談、健康教室、ストレスチェックの実施 ・職員健康診断、人間ドック、特定保健指導の実施 ・職員互助会による給付、レクリエーション事業						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 職員						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 職員の福利厚生と健康管理による予防						
	事業を構成する事務事業(B票)	① 職員健康診断事業	改善・見直し	④				
	② 職員互助会補助事業	改善・見直し	⑤					
	③		⑥					
コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	予算	12,446	12,892	13,634	12,711	12,916
			決算	12,181	13,103	13,308	11,999	
	人件費(B)	千円	決算		8,214	13,946	11,417	
総コスト(A)+(B)	千円	決算		21,317	27,254	23,416		
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 健康診断・人間ドック受診率	%	目標	100	100	100	100	100
			実績	99	98	97	99	
	B ストレスチェック受検率	%	目標		100	100	100	100
			実績		93	98	98	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 正規職員の対象者のうち、健康診断及び人間ドックを受診した割合								
B ストレスチェックの対象者のうち、受検した割合								
C								
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 労働安全衛生法の改正により、平成28年度から年に1回のストレスチェック実施が義務化。							
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 職員が自身のストレス状況等を把握するため、対象者全ての受検を目標としており、ほぼ達成できている。						
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年度からストレスチェックの実施が義務化されているが、高い受検率を維持しています。						
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 健康診断の受診結果による要精密検査者の追跡調査や福利厚生事業の利用率による分析方法の検討						
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 健康への不安の削減やリフレッシュできる環境の整備						
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目途に、健康に関する教室や福利厚生事業を充実させる。						

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・福利厚生の方からも行政改革指針に係る「職員の働き方改革の推進」に寄与するよう引き続き努めてください。
------	-------------------------	---

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	職員福利厚生事業		担当部課	市長公室人事課	決算書ページ	—
事務事業名	①	職員健康診断事業	予算区分	2-1-4 人事秘書管理費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	—	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員に対し、健康診断、人間ドックを受診させます。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 健康診断の受診等を通し、職員の健康管理を行います。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	10,266 9,997	10,626 10,861	11,253 10,961	10,608 9,916	10,751
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)		職員健康診断委託					7,627 千円
(2)		ストレスチェック業務委託					849 千円
(3)		産業医報償金					720 千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
健診・ドック受診者数	人	見込	456	468	490	434	447
		実績	452	460	475	432	
ストレスチェック受検者数	人	見込		591	626	591	615
		実績		550	611	578	

<備考：活動の概要（30年度(2018)）>

- ・人間ドック（292人受診） ・ストレスチェック（578人受検）
- ・健診（317人受診）
- ・緑内障検査（40人対象）
- ・予防接種（16人接種）

4. 事務事業を取り巻く環境変化

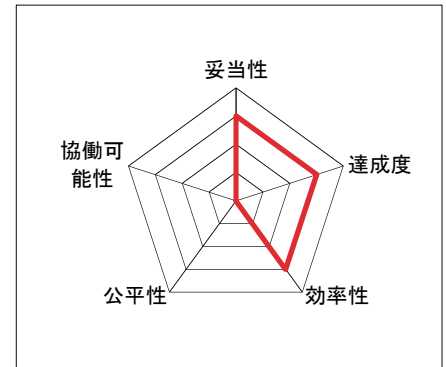
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成30年度より、共済組合による人間ドックの助成対象が35歳以上から30歳以上に拡大されました。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
10,608 千円 10,751 千円 143 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
人間ドックの受診対象者の拡大を検討（35歳以上から30歳以上に対象を拡大）。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
人間ドックの受診対象者を35歳以上から30歳以上に拡大。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	—
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況（30年度(2018)）				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
緑内障検査を40歳以上5歳刻みで対象者を決めて実施しているが、人間ドックでも眼底検査等実施しているため、緑内障検査を継続していくか検討していきます。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	職員福利厚生事業	担当部課	市長公室人事課	決算書ページ	—
事務事業名	② 職員互助会補助事業	予算区分	2-1-4 人事秘書管理費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	—		終了(予定)年度	—

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員と市による費用補助により、福利厚生事業を運営します。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 職員の保養の増進

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
			(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)
事業費	千円	予算	2,180	2,266	2,381	2,103	2,165
		決算	2,184	2,242	2,347	2,083	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 職員互助会補助金 2,083 千円 (2) 千円 (3) 千円							

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
			(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)
職員1人あたり 利用回数	回	見込	6	6	6	6	6
		実績	5	6	6	9	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))> ・福利厚生倶楽部による施設等の利用助成(利用者3075人) ・結婚、出産、資格取得等への給付事業(利用者546人) ・チケット、賠償保険等の斡旋事業(利用者135人) ・スーツケース等備品貸出事業(利用者35人)							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

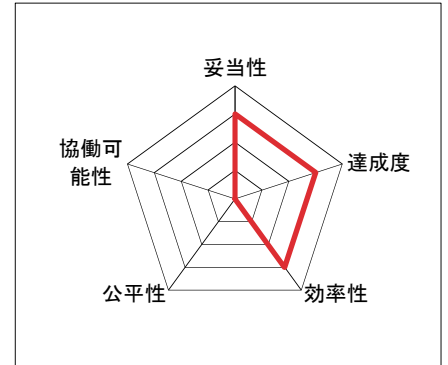
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 消防広域化により、平成30年度の会員数が減少。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
2,103 千円	2,165 千円	62 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	現状維持	
・前年度【コメント】		
利用契約を結んでいる施設の利用実績が低いため、職員へのアンケート調査等を通し、施設の見直しを検討。		
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
施設との利用契約の内容が変更になる機会に、利用実績の低い施設との契約を解除しています。		

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	—
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
職員の自己啓発等の意欲を高めるため、資格取得祝金の対象となる資格を、職員アンケートを通して見直しを行います。

7. 今後の方向性

改善・見直し